

21・24・3・6時は、多くの地点の風が1m/s以下となり、主に日本海沿岸で海上へと向かう気流が出現する。特に3・6時はNc型のように太平洋岸にも海上へと向かう気流が多く、多くの地点で見られる。しかし、気圧傾度が南に向き、かつ大きい場合は、Na型のように太平洋側の海岸地帯や平野部が、海からの風に覆われる。9時は沿岸部で海からの風により覆われる地域が多い。しかし、その風向は気圧傾度の方位によって大きく左右され、気圧が西に向かって高い場合は西寄りの成分が強くなる。逆に、東に向かって高い場合は、東寄りの成分が強くなる。12・15時は、D1～D5型の合成図に見られるような、山岳域の中心部へと収束する大規模な気流が出現する。この気流は気圧傾度によって変化し、例えば、気圧傾度が大きい場合はD4型のように海風が顕著に現われない。また、南に向かって気圧が高く、かつ傾度が比較的大きいような場合は、D2型のように太平洋側の風速が大きくなり、鹿島灘付近の海風は出現せず、南からの気流によって覆われる。

以上のように、盛夏期の夏型気圧配置時の中部日本における風系の、詳細な特徴が明らかになった。本研究で得られた結果はメソ・スケールの風系と総観規模の気圧傾度との係わり合いを理解するため有効な知識を与えるものである。今後は、風系と他の気象要素との関係や、三次元的な風系の構造が明らかになれることが期待される。

謝辞

本論文を作成するにあたり、資料の収集に際し、気象庁気候変動対策室調査官の田宮兵衛博士に御協力をいただいた。また、本研究の一部に文部省科学研究費補助金環境科学特別研究(1)内陸域における大気汚染の動態(代表者 浅井富雄課題番号60030036)を使用した。ここに記して感謝の意を表わす。

参考文献

- 藤部文昭・浅井富雄, 1979: 関東地方における局地風に関する研究, 第1部: 日変化を伴う風系の構造, 天気, 26, 595-604.
- 藤部文昭, 1981: 海陸風の季節的特性, 天気, 28, 367-375.
- 深森信吾, 1972: 逆転層下に発生した東京湾における低層の強風について, 研究時報, 24, 345-349.
- Harada, A., 1981: An analysis of the nocturnal cyclonic vortex in the planetary boundary layer of the kanto plains, J. Met. Soc. Japan, 59, 602-610.
- 原田 朗, 1984: 関東地方の下層風速極大について, 天気, 31, 679-686.
- 河村 武, 1966: 中部日本における冬の地上風系—とくに冬の季節風に関連して—, 地理学評論, 39, 538-554.
- 河村 武, 1970: 南西気流に伴う中部日本の地上風系, 地理学評論, 43, 203-210.
- 河村 武, 1977a: 全国地上風分布図, 気象庁技術報告, 91, pp 76.
- 河村 武, 1977b: 海陸風の気候, 南関東大気環境調査報告書, 気象庁, 46-52.
- Kikuchi, Y., S. Arakawa, F. Kimura, K. Shirasaki and Y. Nagano, 1981: Numerical study on the effects of mountains on the land and sea breeze circulation in the Kanto District, J. Met. Soc. Japan, 59, 723-738.
- Kimura, F., 1985: A numerical simulation of local winds and photochemical air pollution (II) Application to the Kanto Plain, J. Met. Soc. Japan, 63, 932-936.
- 栗田秀實・植田洋匡, 1985: 傾度風が弱い場合の大気汚染物質の長距離輸送と熱的低気圧および総観気象の関係, 大気汚染学会誌, 20, 251-260.
- 仁科淳司, 1982: 冬型気圧配置下における中部日本の風系の日変化, 天気, 29, 515-531.
- 清水重喜, 1964: 中部日本の熱的高低気圧に伴う風の日変化について, 天気, 11, 138-141.

訂正

巻・号	頁	誤	正
34・8	525	日本気象協会 (船舶気象観測資料)	気象庁 (船舶気象観測資料)